

令和3年度 社会福祉法人大子町社会福祉協議会 事業報告

長寿化・少子化による超高齢社会の中で多様化するニーズに対し、町民の理解と協力を得ながら、福祉・保健・医療関係者、各種団体・施設・ボランティアとの連携を図り、子どもから高齢者、障がい者“だれもが住み慣れた地域で、安心して暮らせるまちづくり”を目指し、各事業を実施した。

I 地域福祉事業

1 理事会・評議員会・監査の実施

理事会・評議員会・監査と次のとおり開催した。

- (1) 理 事 会 4 回（6月14日、7月8日、12月15日、3月15日）
- (2) 評議員会 2 回（6月30日、3月29日）
- (3) 監 査 1 回（6月2日）

2 社会福祉協議会の基盤の強化

- (1) 社会福祉協議会の職員41名を配置し、複雑多様化する社会福祉の課題に対応するため、区長・民生委員児童委員・ボランティアを始め、保健・福祉関係者の協力を得ながら福祉の向上に努めた。
- (2) 自主財源確保のため、全戸会員を目標に賛助会費として一般・特別会費徴収に努めた。

<地区別実績額>

(単位＝円)

地区名	世帯数 ・口数	金額	内 訳		
			普通会費 700 円	特別会費 1,500 円	福祉施設 その他
			世帯数・口数	世帯数・口数	件数
大 子	1,367	996,100	1,318	49	—
依 上	496	354,400	487	9	—
佐 原	382	275,400	372	10	—
黒 沢	483	358,100	458	25	—
宮 川	608	437,600	593	15	—
生 瀬	567	403,300	559	8	—
袋 田	595	430,100	578	17	—
上小川	596	422,000	590	6	—
下小川	167	120,100	163	4	—
その他	57	81,900	4	13	40
合 計	5,318	3,879,000	5,122	156	40

3 ボランティア活動の推進

- (1) 社会福祉についての理解と関心を高めるための啓発に努めるとともにボランティアの育成及び実践活動の推進を図った。

- (2) ボランティア連絡協議会を開催し、町内のボランティア活動を行っている個人・グループ同士の情報交換等を行い、ボランティア活動を機能的に推進できるように努めた。
・ボランティア連絡協議会連絡会開催日：5月24日
- (3) ボランティア活動に対する相談支援や研修会等を行い、ボランティア活動の資質の向上に努めた。
7/28 知ることから始めよう！物忘れと認知症の違いって？ 44名
8/9 盲導犬との生活とは？ 中止
- (4) 安心してボランティア活動が行えるようボランティア活動保険の加入推進と保険料の一部助成を行った。
・登録ボランティア数：251名 ・ボランティア活動保険料助成件数：161件
- (5) “子どものときから福祉の目を”をスローガンのもと、町内の全小・中学校を児童・福祉のボランティア活動協力校に指定し、助成金の交付や出張講座、相談支援、研修会等の情報提供を行い、福祉教育の推進に努めた。
- (6) ボランティアが読む「声の広報だいご」のCDを作成し、月1回町内希望施設に配布した。

4 地域福祉の推進

(1) 地域福祉活動推進事業

全地区で区長、民生委員児童委員が中心となり、地域における特性を生かして実施されているひとり暮らし高齢者等の配食サービスや会食会、訪問活動に補助金を交付し、地域住民の交流の機会の確保や地域福祉の充実に努めた。

・地域福祉活動推進会議開催日（補助金交付）：9月13日～9月15日

<地区別活動実績>

地 区	実施日	内 容
大 子	11 月 20 日	ひとり暮らし高齢者配食
依 上	11 月 28 日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
佐 原	11 月 26 日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
黒 沢	11 月 25 日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
宮 川	11 月 28 日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
生 瀬	11 月 16 日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
袋 田	11 月 5 日	ひとり暮らし高齢者日用品配付
上小川	11 月 26 日	ひとり暮らし高齢者食品・日用品配付
下小川	9 月 20 日	敬老祝品配付

(2) 在宅介護用品等貸出事業

車いす対応福祉車両、介護用ベッドなどの無料貸出を行い、在宅介護者の負担軽減に努めるとともに要介護者が自宅で安心して生活し続けられるよう支援を行った。

<福祉車両（車いす対応車）貸出状況>

品名	総数	貸出回数
福祉車両（車いす対応）	1	47

＜介護用ベッド、車いす貸出状況＞

品名	総数	新規貸出件数	返却件数	本年度末貸出中件数
ギャッジベッド	53	2	1	43
車いす	42	30	31	35

(3) 権利擁護推進事業

○ひとり暮らし高齢者や障がい者等を対象に、緊急時に重要書類等を一時的に預かることで、安心して福祉サービス等を利用できるよう支援した。

○判断能力が不十分な方を保護するため、成年後見制度の利用を希望している親族等からの相談に応じられる窓口を設置した。

＜利用状況＞

前年度末契約数	本年度新規契約者数	本年度解約者数	本年度末契約者数
4名	5名	3名	6名

(4) “安心箱” 配付事業

75歳以上のひとり暮らしの方へ、緊急入院や災害時に必要な物を入れ、保管しておける「安心箱」を民生委員児童委員の協力を得て配布した。(配布件数63名)

(5) 社協の事業をまとめた「社協パンフレット」を活用し、社協事業の啓発に努めた。

5 高齢者福祉の推進

(1) あんしんコール事業

ボランティアの協力を得て、プライバシーを守りながら、ひとり暮らし高齢者等と定期的に会話をする「あんしんコール」を実施し、在宅生活の不安の解消に努めた。

＜活動実績＞

開設日	開設日数	利用者数	延件数
毎週月・水・金曜日	141日	22名	968件

(2) 共同募金配分金を財源に老人クラブ連絡協議会と共催し、ゲートボール・輪投げ・ペタンク・クロッケー・グラウンドゴルフ大会を開催し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり等に努めた。

(3) 共同募金配分金を財源に各地域の単位老人クラブと連携し友愛訪問活動を実施し、ひとり暮らしや寝たきり高齢者となっても住み慣れた地域で、同世代の仲間同士と励まし支えあいながら住み続けられるよう地域づくりの推進に努めた。 ・訪問実人数：215名

6 障がい者（児）福祉の推進

(1) 共同募金配分金を財源に山のつどい及び障害者スポーツ大会等の協力援助を行うとともに、障がい者2団体の育成援助等、障がい者（児）福祉の充実に努めた。

7 母子（父子）福祉の推進

(1) 共同募金配分金を財源にひとり親家庭の小学校入学児童1名に対しお祝いを贈呈した。

8 児童福祉の推進

(1) 共同募金配分金を財源に「子育て十章」を更生保護女性の会と共同で作成し、各保育所（園）・幼稚園・小学校の保護者に配布し、子育て支援に努めた。

9 福祉団体との連携及び事業への協力援助

- (1) 大子町老人クラブ連絡協議会、大子町身体障害者福祉協議会、大子町遺族連合会、大子町更生保護女性の会、福祉4団体の事務局として、社協活動との連携を図りながら福祉団体の支援に努めた。

10 共同募金運動

共同募金配分金の財源確保のため、区長会及び行政連絡班長や女性の会等多くの関係者の協力を得て、赤い羽根募金・歳末たすけあい募金運動に努めた。

＜赤い羽根共同募金地区別実績額＞

(単位＝円)

地区名	実 績 額	付 記
大 子	822, 400	
依 上	297, 000	
佐 原	230, 400	
黒 沢	292, 900	
宮 川	363, 600	
生 瀬	336, 000	
袋 田	354, 600	
上 小 川	358, 200	
下 小 川	103, 200	
法人募金	685, 000	町内65か所企業
一円玉募金	71, 623	各小中学校・清流高校
職域募金	81, 605	各小中学校・清流高校・振興公社・役場・社協職員 他
そ の 他	56, 696	赤い羽根自販機・テーマ型募金
合 計	4, 053, 224	

＜歳末たすけあい募金地区別募金実績額＞

(単位＝円)

地区名	金 額	地区名	金 額
大 子	409, 900	生 瀬	168, 000
依 上	148, 900	袋 田	177, 300
佐 原	115, 500	上小川	179, 100
黒 沢	146, 400	下小川	51, 600
宮 川	181, 800	その他	3, 955
		合 計	1, 582, 455

＜赤い羽根共同募金配分事業内容＞

(単位＝円)

区 分	配分額
老人福祉活動費	1 9 0, 9 1 2 円
障害児・者福祉活動費	3 0, 0 0 0 円
児童・青少年福祉活動費	1 1, 3 8 5 円
母子・父子福祉活動費	1 0, 0 0 0 円
福祉育成・援助活動費	2, 9 3 3, 1 7 2 円
ボランティア活動育成事業費	4 6 7, 4 5 0 円
合 計	3, 6 4 2, 9 1 9 円

＜歳末たすけあい募金配分事業内容＞

(単位＝円)

内 容	金 額
温かいお正月事業 (障害福祉サービス事業所 6施設・ 高齢者福祉施設 6施設)	604,860 円
一人暮らし高齢者へのおせち品配布 (80歳以上) ※カレンダー配布 490名	1,064,123 円
合 計	1,668,983 円

＜災害義援金の受付業務＞

災害義援金について、義援金の募集、並びに受付業務を行った。

- (1) 平成30年7月豪雨災害義援金
- (2) 令和3年2月福島県沖地震災害義援金
- (3) 令和3年島根県松江市大規模火災義援金
- (4) 令和3年7月島根県大雨災害義援金
- (5) 令和3年7月大雨災害静岡県義援金
- (6) 令和3年大雨災害義援金
- (7) 令和4年3月福島県沖地震災害義援金

1.1 善意銀行の運営

- (1) 善意を持って寄せられる金品や物品の受領並びに払い出しを行った。
- (2) フードバンク事業の利用支援として、フードバンクより食料品等が送付される際の送料に対して助成を行った。
- (3) 生活つなぎ資金の貸付を行い、生活安定と自立を支援した。

＜預託状況＞

物品件数	金銭件数	金額	備考
19件	53件	2,542,082 円	一般預託金 (49件) 2,479,757 円 指定寄付 (3件) 62,325 円

＜払出状況＞

物品件数	金額	備考
17件	1,682,392 円 (指定寄付分 62,325 円含む)	安心箱配付事業 (バスタオル・衣装ケースを配分) 86,845 円 子育て支援 (幼稚園・保育所 (園)・子育て支援センターへ遊具・玩具を配分) 348,350 円 車イス対応福祉車輛経費 (車検代含む) 285,261 円 フードバンク (18件) 27,200 円 災害見舞金 (熱海市) 50,000 円 生活つなぎ資金貸付金 (28件) 790,000 円 その他(車イス部品代・事務消耗品代等) 32,411 円 (指定寄付) 太子福祉作業所 62,325 円

＜生活つなぎ資金貸付状況＞

本年度貸付額	本年度償還等額	未償還残高 (R3年度以前の貸付金含む)
28件 790,000円	償還免除 36件 813,100円 償還 32件 874,000円	1,721,055円

1 2 日常生活自立支援事業

認知症の高齢者や知的または精神的に障がいのある方など判断能力が不十分で、かつ親族などの援助が得られない方に対して、生活支援員が福祉サービスの利用手続きの援助や日常生活の金銭管理援助及び書類等の預かりサービスを行い、地域で自立した生活が送れるよう支援した。

<利用状況>

前年度末契約数	本年度契約者数	本年度解約者数	本年度末契約者数	訪問件数
19名	4名	5名	18名	602件

1 3 生活福祉資金貸付事業

(1) 民生委員児童委員の協力を得て、生活福祉資金貸付、償還の相談に応じた。

○総合支援資金（特例貸付含む）

- ・貸付件数 57件
- ・貸付額合計 39,474,585円（貸付利子を含む）
- ・3月末未償還金残高 39,474,585円（滞納額を含む）

○福祉・教育・小口資金（特例貸付含む）

- ・貸付件数 95件
- ・貸付額合計 24,875,394円（貸付利子を含む）
- ・3月末未償還金残高 27,242,645円（滞納額を含む）

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付

○特例緊急小口資金

- ・貸付件数 11件
- ・貸付額合計 2,200,000円

○特例総合支援資金 ※延長貸付含む

- ・貸付件数 14件
- ・貸付額合計 7,800,000円

○再貸付

- ・貸付件数 10件
- ・貸付額合計 5,550,000円

※貸付金の財源は全額公費

1 4 介護用品事業

(1) 介護用品宅配事業

高齢者等に対し宅配により毎月の上限額の範囲内で介護用品の現物を支給した。

(2) 介護用品購入費助成事業

高齢者等を介護している方に対し上限額を範囲内で介護用品の購入費用の全部若しくは一部を助成した。

<内訳>

事業名	申請件数	助成額
介護用品宅配事業	734件	14,509,374円
介護用品購入助成事業	294件	10,583,821円
合計	1,028件	25,093,195円

15 地域支え合いサービスセンター「さとも」

非営利的な有償による訪問サービスを行う住民参加型福祉供給組織「地域支え合いサービスセンターさとも」を設置し、高齢者や障がい者等の家事援助・話し相手等の様々な支援を行い、在宅での日常生活の充実を図るとともに、本人・家族の身体的・精神的負担の軽減に努めた。

<地域支え合いサービスセンター「さとも」>

利用会員数（退会者を含む）	協力会員数（退会者を含む）	活動延回数
66名 内訳） ・要支援者：26名 ・要介護者：21名 ・総合支援対象者：1名 ・障がい者：2名 ・その他：10名	32名 内訳） ・男：5名 ・女：27名	822回
活動延時間数		883.0 時間
（内訳）食事の準備・片付け		76.9 時間
住居内の掃除、整理整頓		511.3 時間
生活必需品等の買い物代行		169.3 時間
外出時の付添い		9.0 時間
衣類の洗濯・補修		8.2 時間
その他会員間で行うことがふさわしい支援		108.3 時間

II 障がい福祉サービス事業

16 就労継続支援事業の運営

障害者総合支援法に基づき、在宅の知的・身体・精神障がい者が通所し、日常生活に必要な社会性の訓練・軽作業を継続的にを行い、自立と社会生活への適応力を養えるよう就労継続支援事業所（大子福祉作業所と若草共同作業所）の運営に努めた。

<利用状況>

大子福祉作業所（定員 20 名）		若草共同作業所（定員 20 名）	
利用申込者数	16 名	利用申込者数	21 名
開所日数	240 日	開所日数	240 日
延利用者数	2,931 名	延利用者数	3,071 名
1 日平均	12.2 名	1 日平均	12.8 名

17 特定相談支援事業所の運営

障害者総合支援法に基づき、利用者が有する能力や適性に応じ、自立した日常生活・社会生活を営むことができるように配慮して相談に応じた。

○契約件数 40 件

18 障がい児日中一時支援事業

Ⅲ 介護保険サービス事業

19 訪問介護事業所の運営

○別紙①のとおり

Ⅳ 受託事業

20 大子町文化福祉会館『まいん』指定管理事業

- (1) 町民がいつでも安全に気持ちよく利用できるよう施設の適正な管理に努めた。
- (2) 大子町文化福祉会館「まいん」に設置している全自動血圧計を活用し、「まいん」利用者の健康管理に努めた。
- (3) 官公庁等が定める感染症対策ガイドラインを参考に館内の新型コロナウイルス感染対策に努めた。

<部屋別貸館状況>

区分	文化ホール	観光交流 ホール	小会議室	高齢者 活動室	相談室	学習室	子育て 支援室	展示 コーナー	合計
件数	46	546	45	362	154	—	220	7	1,380
人数	3,807	8,067	171	1,253	144	106	9,029	711	23,288

21 ふれあい・いきいきサロン事業

高齢者等が、身近な地域でボランティアと一緒に生きがいと健康づくりの企画運営を行う仲間づくり活動を通じて、高齢者の閉じこもり防止や孤独感の解消等が図れるよう活動支援や新規サロンの立ち上げ支援を行った。

- (1) 実施個所数 18カ所（中央型9カ所・小地域型9カ所）
- (2) 申込者数 446名
- (3) 参加延人数 4,783名

<ふれあいいきいきサロン別活動実績>

名 称	場 所	実施日	実施回数	申込者数	参加延人数
ダンスくらぶ	町文化福祉会館	毎週火曜日	30	16	387
絵手紙くらぶ	町文化福祉会館	毎週火曜日	11	8	15
書道くらぶ	町文化福祉会館	毎月第2金曜日	9	5	40
うたごえくらぶ	町文化福祉会館	毎月第2・4木曜日	5	8	40
手芸くらぶ	町文化福祉会館	毎月第3金曜日	10	24	203
囲碁くらぶ	町文化福祉会館	毎週月曜日・金曜日	78	26	290
童謡くらぶ	町文化福祉会館	毎月第3水曜日	4	8	17
将棋くらぶ	町文化福祉会館	毎週木曜日・日曜日	81	17	474
いきいきヘルス体操	町文化福祉会館	毎週木曜日	40	—	806
町付地区いきいきサロン	黒沢コミュニティセンター	毎月第3火曜日	15	55	183
佐原ふれあいいきいきサロン	佐原コミュニティセンター	毎月第2・4火曜日	16	28	166
下野宮東区いきいきサロン	下野宮東区集会所	月1回	14	34	187
いきいきサロンなませ	生瀬コミュニティセンター	第2火曜日	12	32	104

いきいきサロン前冥賀	前冥賀集会所	月 1 回	19	26	150
清流わかばサロン	町内施設のグラウンドゴルフ場	毎週木曜日	42	34	975
元気アップ下小川	下小川コミュニティセンター	第 3 火曜日	24	66	266
近町ふれあい・いきいきサロン	近町公民館	第1金曜日・第3・4土曜日	25	35	355
おとめ会	上町公民館	第2月曜日	16	24	125

※いきいきヘルス体操は、申込方式ではないため申込者数の記載なし。

2 2 大子町高齢者大学運営

単位老人クラブからの推薦及び一般公募により大学生を対象とした高齢者大学を設置し、高齢者の生涯学習・生きがい・健康づくりの推進のため、8回の学習会等を開催した。

<月別実施状況>

月 日	学 習 内 容・講 師	場 所	参加人数
5 月 27 日	令和3度（第54回）入学式 第1回学習会 町の高齢者福祉・社協について	町文化福祉会館	27 名
6 月 17 日	消費者相談について 消費生活相談員	町文化福祉会館	27 名
7 月 27 日	地域協力隊活動報告 大子町地域おこし協力隊	台風のため中止	－
8 月 27 日	お薬講座	コロナ感染拡大のため中止	－
9 月 27 日	介護予防について シルバーリハビリ体操	コロナ感染拡大のため中止	－
10 月 27 日	大子町の歴史について 飯村尋道氏	町文化福祉会館	24 名
11 月 25 日	町の研究室の活動について 笠井英雄氏	町文化福祉会館	25 名
12 月 16 日	地域協力隊活動報告 大子町地域おこし協力隊	町文化福祉会館	26 名
1 月 13 日	高齢者の交通安全について 大子警察署	町文化福祉会館	23 名
2 月 24 日	お薬講座 茨城県薬剤師会ビックママあこ薬局	町文化福祉会館	26 名
3 月 16 日	令和3年度（第54回）卒業式	町文化福祉会館	27 名

2 3 家族介護者交流事業

○6月おむつの使い方講座を開催予定（中止）

○12月2日おむつの使い方講座開催 参加者12名

2 4 放課後児童クラブ事業

保護者が就労等により昼間家庭にいない町内の小学校に通う児童を対象に、放課後や土曜日、長期休業期間等の学校休業日に家庭に代わる生活の場を確保し、児童の健全な育成が図れるよう努めるとともに保護者の就労と子育ての両立支援を行った。

<だいが放課後児童クラブ開設状況>

年間開設日数											(単位＝日)	
平日（放課後～18:00）			土曜日（8:00～18:00）			長期休業日（7:30～18:00）			合計			
198			20			39			257			
児童数（年度末）（ ）内長期のみ利用者数											(単位＝名)	
1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計
7		10（3）		12（2）		16（2）		6（2）		7（2）		58（11）
月別利用人数											(単位＝名)	
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
725	664	856	765	636	479	769	711	737	481	272	622	7,781

25 子育て支援センター事業

- (1) たんぽぽ広場を開催し、製作やリズム遊び、季節の行事を行った。
- (2) 保護者からの要望に対応し、ボランティア等の協力を得て読み聞かせ、ママヨガ、月齢別おしゃべりタイムを開催し、子育て支援の充実に努めた。

<たんぽぽ広場>

開設日				開設時間					登録人数				
毎週火・金曜日				10：00～11：00					親20名・子22名				
月別利用人数													(単位＝名)
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
82	88	130	102	35	0	130	135	116	92	104	126	1,140	

- (3) 0歳～就学前の子どもと保護者や妊婦等が地域で安心して子育てができるよう専門職による相談支援や一般開放を行い、同年齢の子育て中の方々と交流や情報交換ができる場を提供し、子育てしやすい環境整備に努めた。

<一般開放>

開設日							開設時間					
毎週月～金曜日および土曜日（不定期）							9：30～14：00					
月別利用人数												(単位＝名)
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
63	84	159	78	29	0	116	147	156	115	127	210	1,284

<相談支援>

開設日	開設時間	相談人数	相談件数
毎週月～金曜日	9：00～17：00	15名	15件

26 ファミリーサポートセンター事業

- (1) 子育ての援助をしたい人と援助を受けたい人がお互い会員となり、子どもたちの健やかな育ちを地域ぐるみで助け合うため、ファミリーサポートセンターを設置し、保護者の就労と子育ての両立支援を行った。
- (2) 毎月第1月曜日に子育て支援センター利用者や登録会員を対象に定期説明会や勉強会を開催し、事業の利用促進に努めた。

<活動状況>

利用会員数		協力会員数		両方会員数		利用人数		利用件数		利用時間数		
14 名		27 名		6 名		3 名		3 回		3 時間		
月別利用人数 (単位＝名)												
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3

27 生活支援体制整備事業

- (1) 日常生活上の支援を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる多様な主体による多様な生活支援、介護予防サービスの提供体制を構築するため、15名の委員を委嘱し太子町生活支援・介護予防体制整備推進協議会を3回開催した。(6/21・11/5・3/23) ※新型コロナウイルス感染症拡大により開催回数減少
- (2) 生活支援コーディネータを配置し、協議会と協力しながら、ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、支援体制の充実・強化に努めた。
- (3) サービス・支援の担い手となるボランティア等を養成するため福祉への理解を深める講座を開催した。

7/28 知ることから始めよう！物忘れと認知症の違いって？ 44名

8/9 盲導犬との生活とは？ 中止

V 共通

28 行政機関、団体及び福祉施設との連携強化

29 啓発事業

- (1) 地元新聞2社の協力により事業等の周知・報告を行った。
- (2) 公式ホームページを活用し、社協活動の周知を行った。
- (3) 広報「福祉だいき」を年2回(1回7,000部)発行し、住民に親しまれるよう紙面の充実を図り、全戸配布することにより社会福祉協議会の活動内容の周知に努めた。

30 総合相談支援

福祉に関することをはじめ、日常生活に関することなど、福祉の専門職が様々な相談に応じ、共に解決に向かえるように支援を行った。

31 職員の資質向上のための取り組み

32 その他